

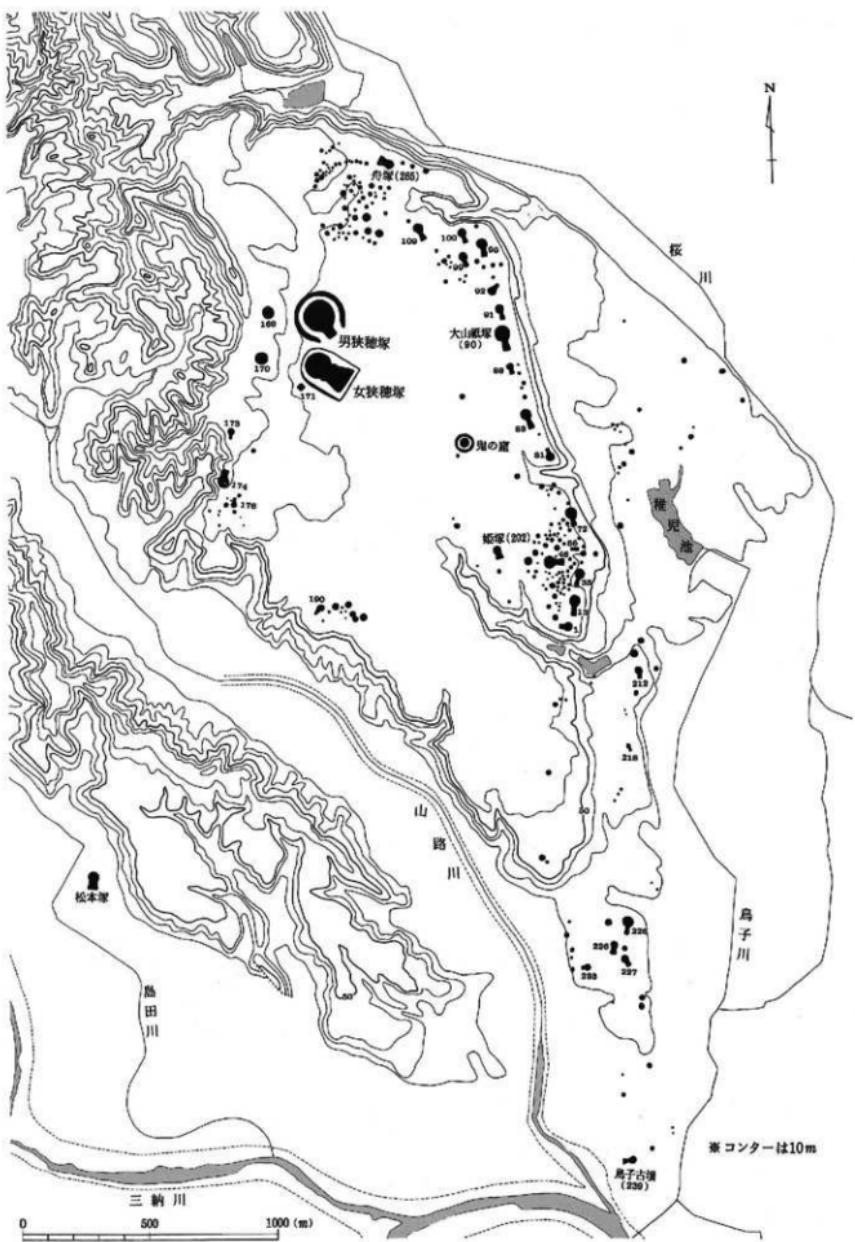
特別史跡
さいとばる
西都原古墳群

発掘調査・保存整備概要報告書(V)



2000.3

宮崎県教育委員会



第1図 西都原古墳群分布図 (1/20000)

序

西都原古墳群は、全国有数の巨大古墳群として、昭和27年に国の特別史跡に指定されました。さらに、昭和40年代には「風土記の丘」整備事業の第1号として史跡整備の先鞭をつけ、以来自然景観と田園風景に調和した秀麗な古墳群として高い評価を受けてきました。

さて、県教育委員会では平成7年度より、大阪府池上曾根遺跡とともに文化庁の「地方拠点史跡等総合整備事業（歴史ロマン再生事業）」の助成を受け、新たな整備事業に着手することにいたしました。「風土の丘」整備事業から四半世紀あまりの時間を経て、再び全国に先駆けて整備事業に着手できましたことは、地元の皆様をはじめ関係者の熱意の賜物であるとともに、古代史の謎を秘める西都原古墳群の存在が全国的にも注目を集めている証拠と言えます。

本年度は、171号墳や100号墳等の発掘調査を行い、新たな情報を含めて今後の整備データを得ることができました。整備では、酒元ノ上横穴墓群保存覆屋施設や13号墳主体部展示施設、171号墳葺石復元等を行いました。

これまでに行った整備や、今後実施する調査・整備によって新たな姿に生まれ変わった西都原古墳群が、学校教育や生涯学習の場として活用されるとともに、遺跡や文化財に対する認識や理解の一助となることを期待いたします。また、本事業を推進するにあたり、深い御理解・御協力を賜った地元住民の方々をはじめ指導委員会の先生方、関係者の皆様に対して、衷心より御礼申し上げます。

宮崎県教育委員会
委員長 笹山竹義

例　　言

- 1 本書は、文化庁の補助を受け、平成7年度から実施している「地方拠点史跡等総合整備事業（歴史ロマン再生事業）」の平成11年度の概要報告書である。
- 2 発掘調査は宮崎県教育委員会が実施し保存整備工事は宮崎県営繕課・都市公園総合事務所に分任し実施した。
- 3 実施計画・監理は（株）文化財保存計画協会、（株）みつくば建築設計事務所に委託した。
- 4 本書の執筆は、第I・IV章を飯田が、第II・III章を松林が行った。
- 5 調査及び保存整備にあたっては、西都原古墳群保存整備指導委員会の委員や特別調査委員の先生方に御指導いただきいた。また、西都市教育委員会、県総合博物館西都原資料館には御協力いただき、記して感謝する。
- 1 調査で出土した遺物は県埋蔵文化財センターにおいて保管している。

本文目次

第Ⅰ章　調査及び整備の経緯	1
1　調査及び整備に至る経緯	
2　整備事業の経緯	
第Ⅱ章　171号墳の調査	3
第Ⅲ章　100号墳の調査	7
第Ⅳ章　保存整備	11

第Ⅰ章 調査及び整備の経緯

1. 調査及び整備に至る経緯

4世紀～7世紀前半にかけて造られた西都原古墳群（西都市大字三宅）は、一つ瀬川右岸の標高60mの洪積台地に位置する。古墳群の構成は前方後円墳32基、円墳279基、方墳1基、地下式横穴墓10基、横穴墓12基、九州最大規模の男狹穗塚・女狹穗塚を有することから、本古墳群は、この地方の古墳時代の核となっていたであろうし、前方後円墳・鏡・埴輪・甲冑・横穴式石室など、ヤマト政権との緊密な政治関係が窺える一方で、地下式横穴墓という在地的な面も持ち合わせている。

わが国最初の合同学術調査が、大正元年～6年に行われ、30基の古墳が調査され、「西都原古墳群」は日本考古学史に残るものとなった。大正年間の調査の評価は、総合的な観点ではなく、断片的な調査に終始した感があるが、その後の西都原古墳群に対する保存意識に多大な影響を与えており、昭和9年の国指定史跡、昭和27年の特別史跡指定、昭和43年には全国初の「風土記の丘」に指定され、古墳と自然が調和した史跡公園として現在に至っている。「風土記の丘」整備では、3つのゾーニングを行い、「森の中の古墳群」、「草原の古墳群」、「古墳間での散歩」といったイメージで整備を行った。また、電柱等は地下埋設を行い、資料館も半地下式とするなど、景観に配慮したものであった。

「風土記の丘」整備から30年近くが経過し、樹木による古墳への影響あるいは、崩壊・陥没などが見られるようになり、また開発事業における発掘調査などで新たに発見された遺跡等もあり、今一度西都原古墳群を再整理し、保存から活用へと今求められている整備計画に着手することになった。

整備計画は、平成5年度に県教育委員会で「西都原古墳群保存整備検討委員会」を設け、平成7年3月に「西都原古墳群保存整備活用に関する基本計画」をまとめ、平成7年度から5ヵ年計画による「地方拠点史跡等総合整備事業（歴史ロマン再生事業）」により整備事業をスタートした。

2. 整備事業の経過

平成7年度 整備に伴う発掘調査は、鬼の窟古墳・第13号墳を行い、整備は鬼の窟古墳の復元整備工事を行った。また施設建設として、西都原古代生活体験館建設を開始した。

平成8年度 発掘調査は、13号墳、酒元ノ上横穴墓墳群を行った。酒元ノ上横穴墓群については、天理大学との合同調査であった。

整備は、前年度から引き続き西都原古代生活体験館を建設し完成した。

平成9年度 発掘調査は、8年度までの試掘結果をもとに、13号墳の調査に入った。また酒元ノ上横穴墓群は二重周溝そして、新たな墓道の確認を行った。

整備は13号墳の調査をもとに墳丘の復元整備が行われ、後円部を残して工事は終了した。また7年度から建設工事を行っていた西都原古代生活体験館が7月12日にオープンすることとなった。この西都原古代生活体験館は、土器造り・勾玉製作・古代食調理・火おこし等の体験ができる施設で、学校

教育や社会教育の場で幅広く活用されている。

平成10年度 調査は、男狭穂塚の倍塚とされる169号墳・西都原古墳群中唯一の方墳である171号墳を行い、葺石・円筒埴輪列等を検出した。とくに171号墳の葺石は残存状況が良好で、根石・区画石等の確認ができ、次年度以降の調査計画に着手することとなった。

整備は、13号墳を含む周辺部そして、202号墳（姫塚）周辺の環境整備を行い、施設建設で酒元ノ上横穴墓群の保存覆屋施設の建設に着手した。

平成11年度 調査は、前年度に引き続き171号墳の調査を行った。171号墳では埴輪列の再調査、大正年間調査の試掘坑確認等を行っている。また新たに、台地縁辺部の前方後円墳の一つである100号墳の調査を行った。

整備工事は、10年度から建設を進めてきた西都原古墳群遺構保存覆屋施設が竣工した。現在は内部の遺構（酒元ノ上横穴墓群）整備及び保存処理工事を施行している。また、13号墳の内部主体見学施設にも着工している。墳丘の整備では、西都原古墳群唯一の方墳である171号墳の葺石復元整備を行っている。また、第1古墳群の園路・休憩施設等の整備も行った。



100号墳発掘作業状況（前方部から）

第II章 171号墳の調査

第1節 調査の概要

今年度の調査では、平成10年度に実施した墳丘構造等の調査を継続するとともに、円筒埴輪列の埋設状況の確認、墳頂部で確認された大正時代の発掘坑の再調査を行った。

第2節 円筒埴輪列について

171号墳では墳頂部と一段目テラスの肩部に並ぶ2列の円筒埴輪列が確認された。1段目テラスでは90本（南東側36、北東側36、北西18）、墳頂部では33本（南東側5、北東側15、北西13）の円筒埴輪の基底部が原位置に近い状態で出土している。基底部を設置するための土坑や布堀り痕跡等の遺溝は確認できず、大正時代の調査で既に破壊されていたとみられる。

第3節 大正時代の発掘坑について

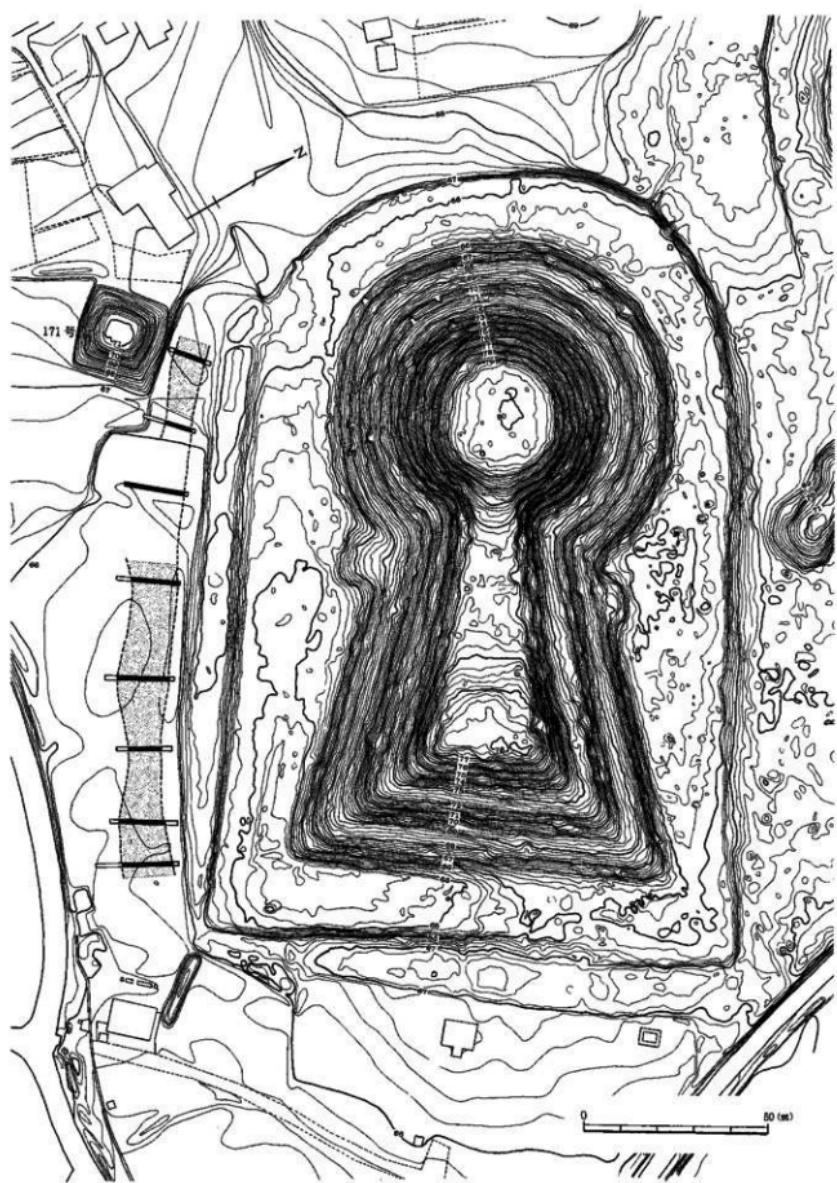
墳頂部平坦面の表土を除去したところ、その中央部から長軸5m、短軸4m程の不整形の土坑が検出された。この土坑は北西側にテラスを持ち、南東側をふかく掘り抜いたもので、最深部では現況の墳頂面から約3mを計る。基底部は軟らかい黒色土で地山と考えられるため、更に下に遺構が存在する可能性はないと判断された。今回の再調査でも大正時代の調査結果と同様に主体部及びそれに付帯する遺構・遺物は検出されず、主体部の有無等を判断する材料は得られなかった。また、この土坑の埋土中央付近から大正時代の調査結果を記した石板が出土している。

第4節 女狭穂塚との関係について

171号墳と女狭穂塚の間にトレンチを設定して調査を行ったところ、両古墳の間には幅約8m、深さ約1mの溝状の遺構が検出された。そこで、この溝の延長上に7本のトレンチを設定して更に調査を行った（第2図）。その結果、幅・深さに若干の相違はあるものの、女狭穂塚の形状に沿うように溝が巡っていることが確認された。しかし、この溝中から遺物は出土していない。

第5節 小 結

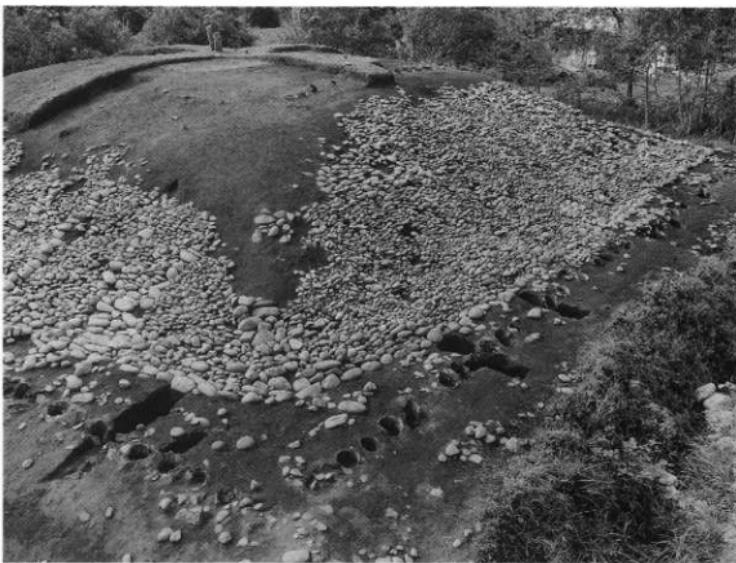
前節で述べた溝は女狭穂塚の周溝の可能性が高く、今回の調査でその存在を確認できたことは大きな成果といえる。この溝については、来年度も調査を継続する予定である。



第2図 女坟構造及びU171号墳周辺検出状況 (1/1250)



171号墳調査状況（南西上空より・奥の森は女狭穗塚）



円筒埴輪列・葦石検出状況（東コーナーより）



円筒埴輪列・蓋石検出状況（北東より）



円筒埴輪列・壹形埴輪検出状況

第III章 100号墳の調査

第1節 古墳の立地（第1図）

100号墳は西都原台地の東縁部に展開する第2古墳群に含まれ、その北東端に位置する。（第1図）周辺には近接して95・99・109号といった前方後円墳が主軸方向をほぼ同じくして分布している。

第2節 調査区の設定（第3図）

前年度に作成した墳丘測量図をもとに古墳をほぼ均等に2分する主軸を設定し、その主軸の直交方向および45度振った方向に調査区を設けた（第3図）。また、くびれ部および前方部隅角、後円部墳頂平坦面では面的な調査区を設定してその形状等の確認に努めた。

第3節 調査の概要

100号墳は主軸をほぼ南北に持つ前方後円墳で、全長約57m、後円部径約33m、前方部長約25m、くびれ部幅約9m、前方部幅約17m、後円部高約5m（最大）、前方部高2m（最大）を計る。平面的に調査以前の墳形と比較すると前方部の幅や長さがかなり異なることや、隅角の位置が東西で2m程のずれがあるため前方部前端線が斜めになること等が確認された。

段築の状況では、後円部3段・前方部2段築成で1段目テラスは全周し、後円部の2段目テラスが前方部の平坦面へと接続している。

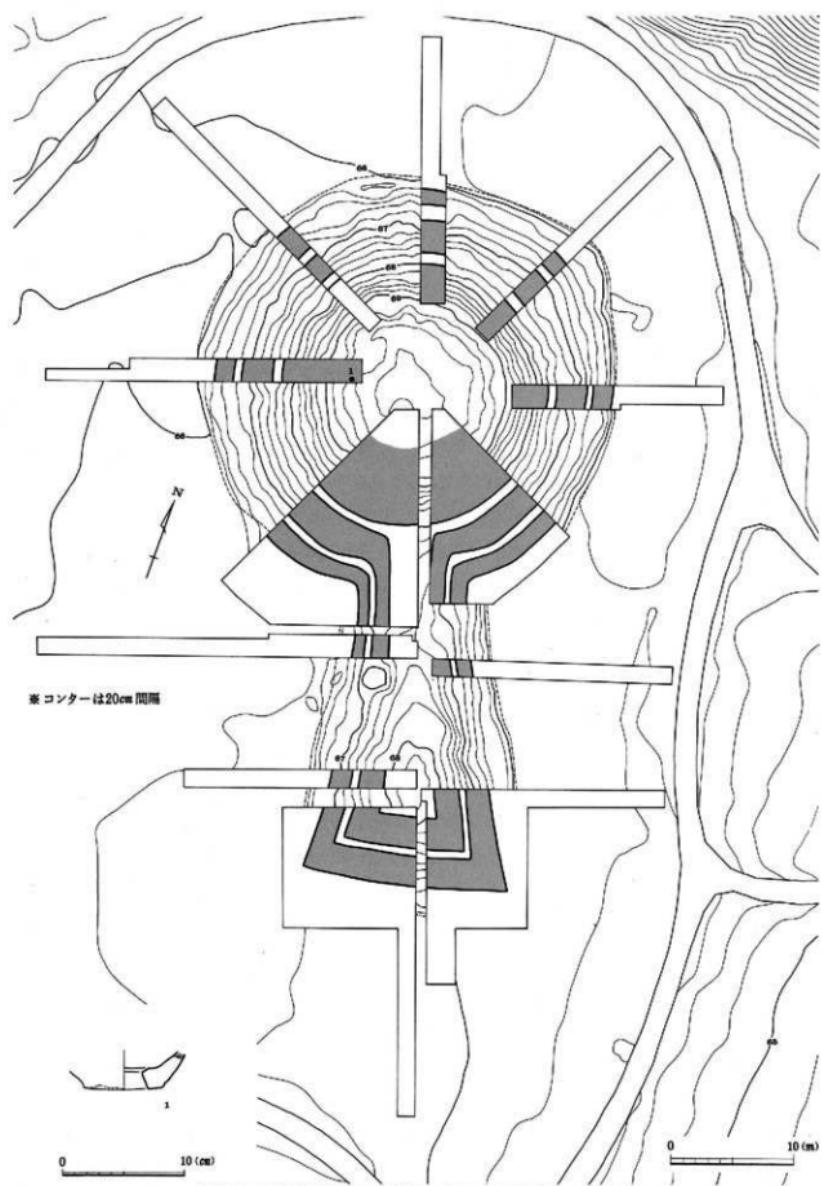
前方部・後円部ともに各段の斜面部に葺石がみられた。50cm大から5cm大の比較的扁平な川原石が用いられ、不規則な区画などもみられた。また、各段の斜面部端には比較的大きな石による根石列もみられた。

周溝は後世の攪乱等により検出が困難であったが、断面観察等の所見ではごく浅い溝が前方後円形に巡っていた可能性が高い。ただし、前方部前端には周溝が及ばない可能性がある。

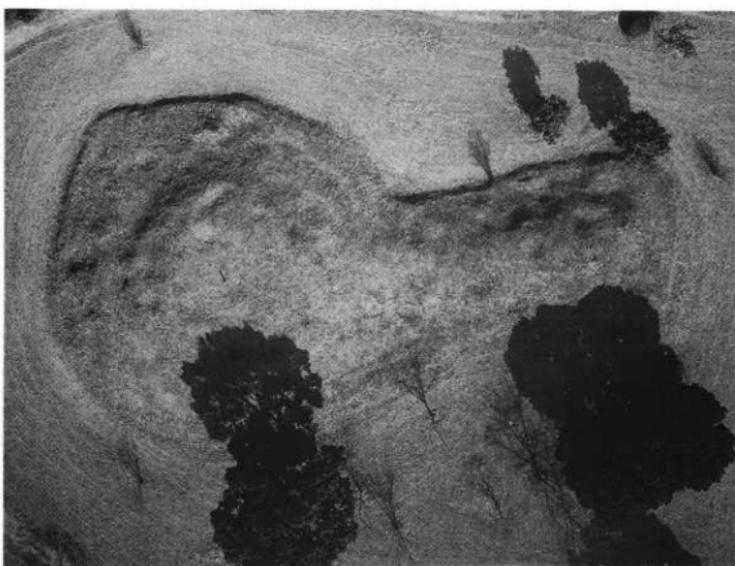
遺物は前方部前端やくびれ部、後円部墳頂平坦面で土師器の高坏や壺、甕とみられる土器片が出土している。細片が多いため詳細は不明であるが、墳頂部付近では焼成前穿孔の壺形土器の底部が出土している。（第3図）。

第4節 小 結

西都原古墳群は古墳研究史上に大きな足跡を残した大正年間の発掘調査以来、本格的な調査が行われたことはなく、各古墳の年代や古墳群の形成過程等解明されていない問題が多い。100号墳は今回が初めての発掘調査であり、調査途上の現段階でもその墳形や出土遺物から13号墳よりも年代的に遡る可能性があることなど、新たな情報が明らかとなりつつある。今後も多面的な検討・記録の徹底を心掛け、整備データの充実と南九州の古墳文化解明へ向けて努力したい。



第3図 100号墳調査区配置図(1/400)及び壺形土器実測図(1/4)



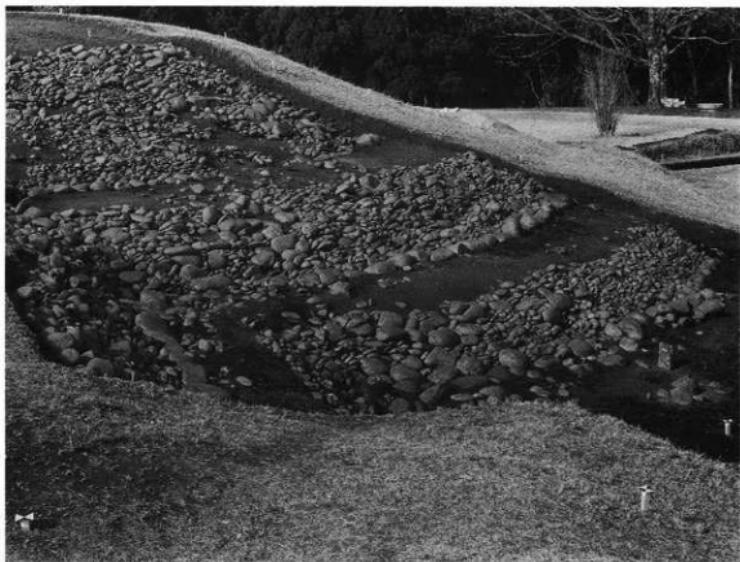
100号墳全景（調査前）



100号墳葺石検出状況（前方部より）



100号墳石検出状況（東側くびれ部）



同上（前方部より）

第IV章 保存整備

今年度は、建築施設の遺構保存覆屋をはじめ、13号墳内部主体見学施設、171号墳葺石復元整備、遺構保存処理整備等を施行した。

①西都原古墳群遺構保存覆屋

昨年度から工事に着手した本施設は、平成11年11月に完成した。約1年に渡っての建設工事が終了したこと、今後は内部の横穴墓群の整備に着手する。

本施設は、酒元ノ上横穴墓群を風雨や直射日光から護り、公開していくために覆いをする施設である。敷地面積は1,400m²、延べ床面積は1,400m²の規模で、基礎部分は鉄筋造、屋根部に県産材の杉材の大断面材を利用し、鋼板を載せ、さらにその上に緑化システムを採用している。屋根部に緑化システムを採用したことは、断熱の効果と併に周辺景観にも配慮した結果である。屋根部の温度が非常に高くなることが予想され、厳しい環境の中でも生育するセダム系の植物を使うことにした。また屋内には乾燥した場合に備えてスプリンクラーによる灌水設備を設置している。

酒元ノ上横穴墓群は現在10基の墓道が検出されており、今回覆屋により保護されるのは6基の墓道である。このうち6号墓道と2号墓道は樹脂による遺構強化を行う。残りの墓道については、一般公開を行いながら発掘調査をすすめ、樹脂による保存処理を行う計画である。

②13号墳内部主体見学施設

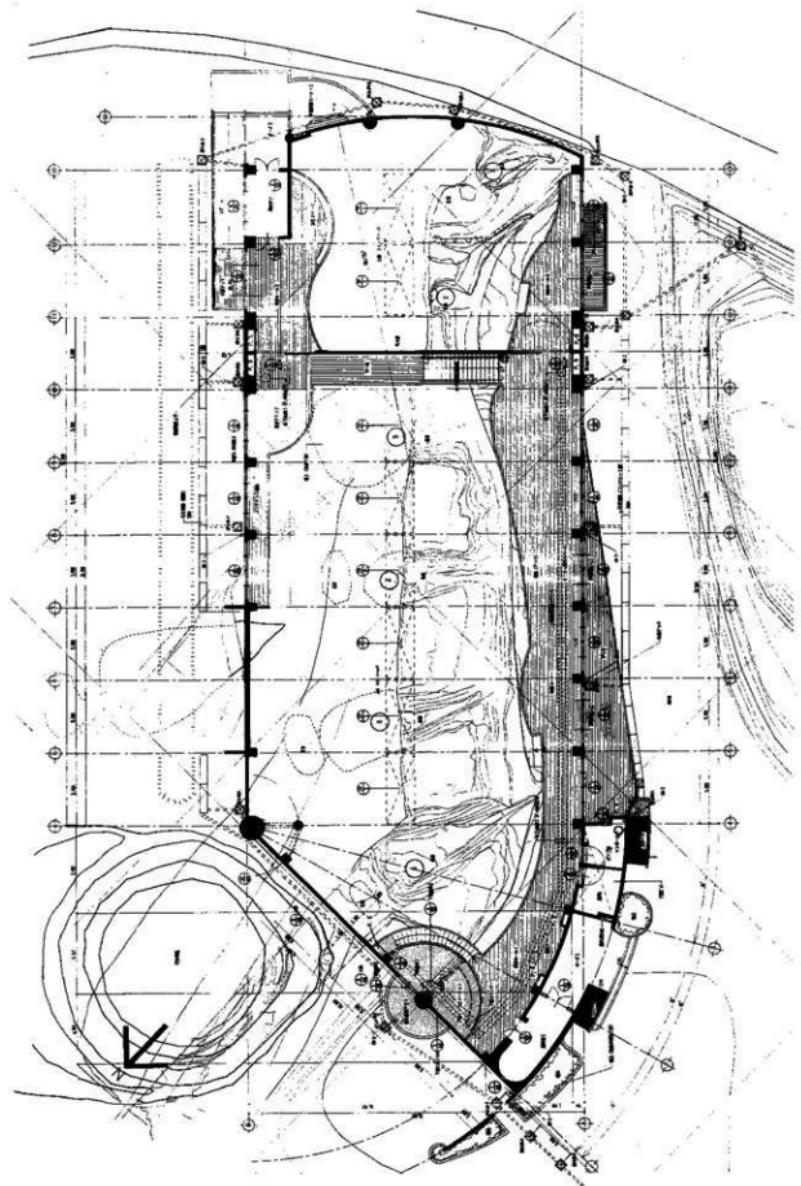
平成9年度に墳丘と周溝の芝貼復元整備工事を行っている本古墳は、後円部の3段目を残すだけとなっていた。段階的な整備の計画として、今年度は後円部の内部主体を見ることのできる施設の建設に着手した。

設計の段階で竪穴式石室を体感できるように、竪方向からの出入りができるイメージして設計を行ってきたが、内部の空間の容量が小さいことで導入の制約、雨水等の排水処理等を検討した結果、墳丘の断面トレーニングを利用しての横方向からの導入を行うことになった。

③171号墳葺石復元整備

10年度から発掘調査を行っている西都原古墳群唯一の方墳である。調査の結果、葺石の残存状況が良好であり、オリジナルの葺石を露出展示することで設計を行ってきた。

葺石は、欠落部分を補充し、オリジナル部分でも、崩落の危険性のある部分や歪みが生じている箇所については、再度積み直しを行った。今年度は墳丘2段目について整備を行い、4面のうち2面が露出展示、残りは盛土養生を行っている。



第4図 遠構保存復元施設平面図

④酒元ノ上横穴墓群造構保存処理工事

西都原古墳群造構保存覆屋により、保存されている横穴墓群で、複数内部に6墓道がある。

保存処理は樹脂注入によるもので、工事に先行して、10年度に造構を構築している土層に適合した樹脂を選定するためにほぼ1年をかけて調査・実験を行ってきた。この結果、ポリシロキサン系の樹脂が適切と判断し、6号と2号墓道について樹脂処理を行う予定である。



造構保存覆屋施設遠景（西から）



同上（北から）



造構保存覆屋施設内部（北から）



同上遠景（北西より）

報告書抄録

ふりがな	とくべつしせき きいとばるこふんぐん はつくつちょうきゅほぞんせいがいようほうこくしょ						
書名	特別史跡西都原古墳群						
副書名	発掘調査・保存整備概要報告書(V)						
卷次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	飯田博之・松林豊樹						
編集機関	宮崎県教育委員会						
所在地	〒880-0805 宮崎市橋通東1丁目9番10号						
発行年月日	2000年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ ー ド	北 緯	東 經	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
まいとばるこふんぐん 西都原古墳群	まいとし おおあざみあけ 西都市大字三宅	市町村 45208	遺跡番号		平成11年 4月～ 平成12年 3月		保存整備
所収遺跡群	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
西都原古墳群	古墳	古墳	171号墳周堀・葺石 100号墳周堀・葺石	土師器・円筒埴輪 土師器	女狭穂塚の外側周溝を確認 前期の前方後円墳		

2000年3月

特別史跡

西都原古墳群
発掘調査・保存整備概要報告書

発行 宮崎県教育委員会

編集 宮崎県教育庁文化課